

# 霊水と共に

発行 法華寺  
No.9  
2019.9  
河南町加納 247  
☎0721933023

まいてら法華

寄り添いの寺 法華寺



十月二十六(土)・二十七(日)の御会式では、新しく修繕した左右一對の幡(ばん)を、本堂の正面に飾ります。以前は赤い絹布が所どころ破れ、傷んでいましたが、金具や布を新しくし、綺麗に復元しました。

その幡(ばん)は、先々代の川添日住上人が、今から八十六年前の昭和八年、日蓮聖人六百五十遠忌に際し、発願新調されたものです。幡の裏には「當寺婦人会十四名、近隣六百戸から浄財を求めた事に依るものなり」と記されています。当時の檀信徒・法華寺婦人会の方々のご尽力が目に見えられます。

一對の金襴の刺繍文字、その片方には『八年之間 但限八品』と書かれています。この出典は、日蓮聖人の代表的な著作、『観心本尊抄』の「かくの如き本尊は在世

五十年に之れ無し、八年の間、但八品に限る」との一文からです。

その意味は、「お釈迦様説法五十年のうち、法華経を説かれた八年間の中の『八品』の部分で最も大切であり、これこそが尊いものである」ということです。この日蓮聖人が大切にされた思いを、日隆上人は

「本門八品上行所伝」と表されたのです。この『八品』とは、法華経二十八章中の第十五章から二十二章のことです。また『上行』とは上行菩薩のことで、一番に我々を救いにきてくださる菩薩様のことです。

もう片方には『如来一命 四方奔踊』と書かれています。それは、約千四百年前、中国が隋という国だった頃、天台大師が法華経の解説書の中で述べた言葉からの引用です。「永遠の存在であるお釈迦様が一人たびお命じになると、あらゆるところから菩薩たちが現れ、人々を救うのである」という内容です。



今年の御会式は、日蓮聖人の七百三十八遠忌になります。尊い「法華経」を耳に口にしてください。そして我々を救いに来てくださる菩薩様に会いに来てください。本堂正面の須弥壇には、上行、無辺行、浄行、安立行の四菩薩が、人々を救うために、歩み始めておられるお姿があります。

## 「お寺で終活シリーズ」

「法華寺カレンダー」では十一月十二日(火)としていましたが、十九日(火)に変更になりました。時間は午後二時〜です。

昨年の講師、下農美智子さんによる「人生のプランニングノート」です。いわゆる「エンディングノート」では、人生のしまい方ばかりに重点が置かれるイメージがありますが、人生百年時代、これまでの人生を振り返りながら、これからの楽しみや課題を見つめなおす機会となれば良いと思っています。

参加ご希望の方は、ご一報ください。



ホームページのブログ(二〇一九年八月十六日)より

「うまくいかぬは自分の不徳、うまくいくのは諸天のお慈悲」とは、いつも私自身に言い聞かせていることです。大型台風をひかえた施餓鬼法要は、雨風対策に苦心しましたが、「人事を尽くし天命を…」という気持ちでした。諸仏諸天の慈悲深く、雨も小雨が時折、風も穏やかで無事務めることができました。天候の様子を見ておられた檀信徒の方々も次々と参拝されました。

新しい動線と待合スペース等を考える中で、より参拝しやすい工夫として、来年度への学びがたくさんありました。今回新しく張った日陰づくりのネットが、雨除け対策に転用できるとは、自分でも驚くアイデアでした。



## 今後の行事予定です



◎九月二十三日(祝) 午後七時半～

彼岸会 逮夜法要

※彼岸会法要は、どなたでもご参加いただけます。初めてお参りされる方はご一報ください。

◎十月二十六日(土)

午後七時三〇分～ 御会式 逮夜法要

◎十月二十七日(日)

午前十一時～ 御会式 祥當法要

※御会式 祥當法要お参りの際は、

昨年十月の駐車場(村の東・案内板案

内あり)をご利用ください。タクシー

のピストン送迎いたします。

## あとがき

・住職(真人)

十二月浜田省吾のライブに行きます。今からワクワクです。忙しい中にも楽しみあります。

・先住職(日駿)

元来元気なのですが最近腰痛に悩んでいます。安静なのか、動けば良いのか難しいところです。

・寺庭婦人(メイ)

大阪伝統野菜、石川早生里芋・田辺大根・金時人参・天王寺蕪・河内蓮根が美味しい季節です。煮物やなますでいかがでしょうか？

・寺庭婦人(早智子)

お盆明け、水分・塩分補給を怠り熱中症にかかりました。大変しんどかったです。塩分は大事ですね。

・徒弟(大志)

八月、組寺のお施餓鬼の様子を勉強にお参りしました。そのお寺ごとに特徴がありますね。